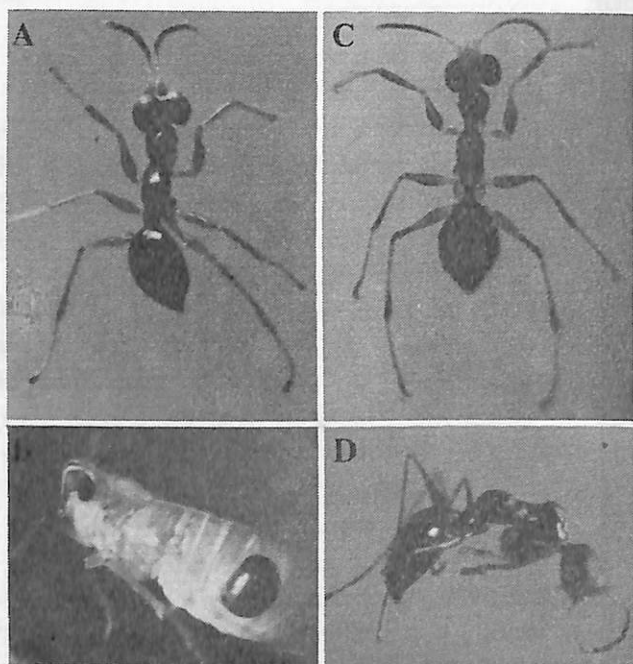


北陸におけるカマバチについて

望 月 正 巳

Masami MOCHIZUKI: On the Dryinid wasps in Hokuriku district

昨年北陸におけるヒメトビウンカ (*Laodelphax striatellus* Fallén) の越冬期にはクロハラカマバチ (*Haplogonatopus atratus* Esaki & Hashimoto 第1図, A) が有力な天敵として働くことを明らかにした¹⁾。その後更に新しい知見を得たのでその2・3を報告する。



第1図A クロハラカマバチ雌成虫, 体長約3mm

第1図B 腹部に嚢状物をもったヒメトビウンカ短翅型雌成虫

第1図C トビイロカマバチ雌成虫, 体長約3mm

第1図D 緑色のヒメヨコバイの1種に寄生するカマバチの1種, 雌成虫, 体長約3mm

クロハラカマバチの発消長を, 昭和54年から55年にかけて, 富山県立技術短期大学小杉農場の水田と草地で調査した。クロハラカマバチの成虫は, 水田, 草地を問わず8月から10月まで採集することが出来た。一方嚢状物を持ったヒメトビウンカ (第1図B) の採集は, クロハラカマバチの成虫を採集するよりも容易であった。嚢

状物を持ったヒメトビウンカは, 3~4月から9月まで採集することが出来た。草地における昭和54年度の事例では, 4月, 6月および9月に嚢状物をもったヒメトビウンカを採集することが出来た。採集したヒメトビウンカ幼虫を飼育すると, 嚢状物をもつ個体が出現することがある。これらの個体のうち, 約3/4は老熟幼虫で, 他の1/4は成虫であった。成虫の場合は, 羽化後2~3日すると嚢状物が出現した。富山県では小杉, 大沢野, 小矢部および福光地区で採集したヒメトビウンカから, クロハラカマバチを得ることが出来た。又県外では, 石川県金沢市の山間で採集したヒメトビウンカからもクロハラカマバチを得ることが出来た。

室内実験によると, ヒメトビウンカはクロハラカマバチに産卵されてから, 凡そ9日で嚢状物を現出した。

ヒメトビウンカにクロハラカマバチを寄生させるために, ヒメトビウンカの飼育器中にクロハラカマバチを放飼すると, 当初クロハラカマバチの攻撃によるためかヒメトビウンカの死亡が異常に高く, 又産卵された個体からおよそ9日で嚢状物が出現した。クロハラカマバチを, ヒメトビウンカとセジロウンカ (*Sogatella furcifera* Horváth) の混合個体群中に放飼したところ, 選択的にヒメトビウンカに対してのみ, 摂取および産卵した。

昭和55年6月に小杉地区の一般水田において, 数頭のセジロウンカ成虫を採集し, これを飼育したところトビイロカマバチ (*Haplogonatopus japonicus* Esaki & Hashimoto, 第1図C) を数頭得た。

その後, 芦崎寺, 福光, 小矢部および石川県金沢市山間の各地においても, 採集かつ飼育したセジロウンカから, トビイロカマバチを, 容易に得ることが出来た。トビイロカマバチを, ヒメトビウンカとセジロウンカの混合個体群中に放飼したところ, 選択的にセジロウンカに対してのみ, 摂取および産卵した。

なお, 昭和55年小杉地区で採集した緑色のヒメヨコバイの1種から, 黒色のツヤのある種名不明のカマバチを数頭得ることが出来た (第1図D)。

引用文献

ソカの越冬期の天敵について, 北陸病虫研報28: 39.

(1981年6月3日受領)

- 1) 望月正巳(1980) ツマグロヨコバイとヒメトビウ
-